

敗北

櫻木れい

私は負けたくなかった  
負けるつもりなどなかったのだ

堂々と居座らせれば 夫も息子たちも  
その魅力にとりつかれ  
理性を失うにちがいない  
墮落するにちがいない  
負の連鎖がたやすく予想される

我が家に入り込んだなら 我が家の男衆は  
どっぷりとのめり込むにちがいない  
その誘惑から抜け出せないにちがいない  
己への厳しさを忘れるにちがいない  
見るに堪えられないではないか  
恐ろしいその魔力

私は毅然と彼らの要求と闘ってきたのだ

ところがだ なんとということであろう  
私はどうしてしまったのだ  
二八年間の闘いを無にするように  
コロナが 街のホワイトアウトが  
私に悪い、いや温かな団欒の絵を描かせる  
どこに招くか想像し  
スリーサイズなど測ってみたりしている

そうして 私は ついに  
敗北を宣言する

「ねえ、今年 炬燵買おうか」